

これまでの活動報告

21世紀COEプログラム代表者 懇談会について

総長が「高等研究院は21世紀COEプログラムを支援する」と明言されているなかで去る平成14年12月26日、21世紀COEプログラムの代表者にお集まりいただき、COE側の要望と本院の今後の活動について、最初の意見を取り交わしました。

プレスリリースについて

去る平成15年1月21日、松尾総長と野依院長らによって、研究プロジェクトの採択結果に関わる記者会見が行われました。総長からは、「21世紀COEプログラムが「面（組織）」であるのに対し、本院研究プロジェクトのように「点（個人）」としての側面も推進していきたい」と、激励がありました。院長からは、「研究にフルスイングでがんばっていただきたい」と本院研究プロジェクト採択者の皆様に熱いエールが送られました。本会見に関する新聞記事は下記の通りです。

●記者会見に関する新聞記事

来月 名大高等研究院15教官で始動、
講義免除、研究に専念

2003年1月22日（水）中日新聞（朝刊）

名古屋大の高等研究院15教官
研究にフルスイング

2003年1月22日（水）朝日新聞（朝刊）

名大「高等研究院」所属教官15人選ぶ

2003年1月22日（水）読売新聞

“名大の顔”15人決まる、授業などを免除、研究に専念

2003年1月22日（水）毎日新聞（朝刊）

名大、看板研究者15人選定教授会や講義免除、研究に専念

2003年1月22日（水）日経新聞（朝刊）

高等研究院所属教官 森永正彦教授ら15人、名大が決定

2003年1月23日（木）日刊工業新聞

●高等研究院に関するその他の紹介記事

国立大法人化法案提出 中部の国立大 対応模索 独自色へ競争本格化
（名古屋大 昨年四月に設立した「高等研究院」は…）

2003年3月1日（土）中日新聞（朝刊）

名大高等研究院 野依良治教授（院長）に狙いを聞く
看板背負うスター 研究フルスイング

2003年3月11日（火）中日新聞（朝刊）

飯島澄男・名城大教授が記念講演
名大高等研究院創設1周年式典

2003年5月2日（金）毎日新聞（朝刊）

飯島教授が講演 名大高等研究院1周年

2003年5月2日（金）読売新聞

ナノチューブの飯島教授が講演
名大高等研究院1周年記念式典

2003年5月2日（金）中日新聞（朝刊）

本院 研究プロジェクト採択者の顔合わせ会について

去る平成15年1月27日、研究プロジェクトに採択された流動教官の皆様にお集まりいただき、簡単な顔合わせを行いました。それぞれの先生方に自己紹介いただいた後、今後の抱負と本院に対する要望を伺いました。

運営費について

本院は現在のところ、学内措置による設置であるため、総長裁量経費を財源として利用し、運営費に充てています。平成14年度予算は主に、本院の研究プロジェクト採択者および専任教官に割り当てられた後、各々の研究費として有効に使われています。

本院 創設一周年

記念式典・講演会・祝賀会が開催される

去る平成15年5月1日（木）、本院創設一周年を記念して、名古屋大学シンポジオンにて記念式典・講演会・祝賀会が開催されました。

会場のシンポジオンホールは、主催者の予想をはるかに上回る来賓、教職員、学生、一般市民など約350人の聴衆で埋まり、立ち見の参加者もでるほどの盛況でした。

記念式典では、松尾総長と来賓の神田愛知県知事（代理）よりご挨拶をいただき、高等研究院に対する暖かい激励の言葉を頂戴しました。さらに、野依高等研究院院長が、高等研究院の趣旨やその概要を説明され、本学における研究推進・研究成果発信の戦略的拠点としての本院の意義を強調されました。

続く記念講演会では、名城大学理工学部教授・NEC特別主席研究員等をつとめられ、カーボンナノチューブのご研究で次期ノーベル賞候補として呼び声の高い飯島澄男先生から「ナノ炭素材料の科学と応用」と題してお話いただきました。飯島先生はご自身の研究を振り返りつつ、重要な発見の背後に長年にわたる研究の経験や成果の蓄積があったことの重要性を強調され、満場の聴衆に大きな感銘を与えられました。また、講演の後の質疑応答では、学部学生を含む数多くの参加者から質問が寄せられ、講演内容への関心の高さがうかがわれました。

夕刻からの祝賀会はシンポジオン・レストランに場所を移し、約60名ほどの参加者を迎えておこなわれました。後藤高等研究院副院長からの挨拶につづき、会場に駆けつけてくださった松原名古屋市長から、高等研究院への期待が語られました。さらに奥野名古屋大学副総長による乾杯の後、飯島先生をはじめとする来賓の方々と囲みつつ、参加者の歓談がなごやかに続きました。

今後の活動予定とお知らせ

平成15年度の本院研究プロジェクト公募予定について

本年度の研究プロジェクト公募は、今年の6月初旬に開始し、7月初旬が締め切りです。なお、本公募に関する詳細につきましては、高等研究院ホームページ (<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>) と公募用ポスターで全学に向けて現在公開中です。

「高等総合研究棟(仮称)」の建設状況・利用の見通しについて

現在建設中の「高等総合研究棟(仮称)」(名古屋大学東山キャンパス・旧核融合研究所跡地)は、来年3月末に竣工予定です。この建物に本院が入居することは全学によって認められています。なお「高等総合研究棟(仮称)」は、「世界に卓越した研究成果の達成および既存領域を超える新たな学問分野の創造を目指し、本学の教員に対して研究プロジェクトを実施する場を提供し、もって本学の学術研究の飛躍的な推進および活性化を図る」ための施設であると位置付けられています。以上の趣旨に鑑みて、本院が入居する部分を含めた建物全体の利用方法の検討と建物完成後の管理を高等研究院が担当することとなり、現在、本院で利用規程・公募要領・選考基準などの原案作成作業をすすめております。

編集後記

高等研究院が創設されてはや1年。他大学にはない組織の立ち上げということで、何もかもが新しく、挑戦の連続です。本院は現在、独自の建物や施設をもたないため、教官も事務官も全く離れた場所でそれぞれ活動しています。時間的にもすれ違いがちな環境のなかで、各部局や事務局間を足繁く行き来し、また、E-mailのやりとりを頼みに密に連絡を取り合い運営しています。このように関係者が一丸となって本院の使命を遂行すべく力を注いでおりますが、同時に皆様のご指導・ご鞭撻なくして本院は成り立ちません。このたび、高等研究院ニュースレター創刊号を編集・刊行することができましたのも、ひとえに皆様方の温かいご支援とご厚情の賜物だと関係者一同、心から感謝申し上げます。皆様の忌憚のないご意見・ご感想をお待ち申し上げます。今後とも本レター共々どうぞよろしくお願い申し上げます。(SS記)

本院に関する詳細につきましては、高等研究院ホームページ
(URL:<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>) をご参照下さい。
このURLから2003-2004年版 高等研究院パンフレットもご入用になれます。



本誌に関するご意見・ご要望は研究協力課までお寄せ下さい。

TEL:052(788)6051 FAX:052(788)6151

E-mail:iar@post.jimu.nagoya-u.ac.jp